

シェクターブリッジ

シェクターのブリッジ類は、たいへんシンプルでスマートなものであります。

ハードウェアの中でもブリッジの音質への影響はたいへん重要なウェイトを占めています。その役目はオクターブ調整が可能である事とひとつ弦と本部の振動とをその双方にフィードバックし持続させる事にあります。

現在エレクトロニクスギター、ベースのブリッジは多くがスチールプレート製かプラスチック製です。俗に言うビンテージギター、ベースのほとんどがスチール製のプレートを加工したもので、それに近年プラスチック材を加工したものがあります。この両者を仮にビンテージギター、ベースにセットされたブリッジと全く同じ形状で製作した場合、音はどのように違ってくるのでしょうか？

一般的にはプラスチック材はリングスチールに優れていると言われていますが、この場合ははっきり言ってプラスチックに関しては大差ありません。なぜなら確かにプラスチック材は音の伝達率が良いのですが、ビンテージスタイルのブリッジは質量の軽いセッティングがなされている為、ある程度の質量を与えない限りプラスチックの豊かな音色とリングスチールの良さが出て来ないからです。逆に、これもプラスチック材の特長ですが音色を甘く変化させるのに質量を軽くした場合、音のメリハリがつかずかえってこもった音になります。

プラスチック材のリングスチールの良さをフルに引き出し、かつ音の分離を良くするためには、その楽器の構造にあった適正な質量と形状を与えなければ弦振動をダイレクトにボディに伝え持続させる事は出来ません。ビンテージギター&ベースのブリッジ類は音、音のバランスと分離の良さは抜群なのですが持続力に欠けています。そのためプラスチック材を同じ形状でブリッジにしてセットしてもベストとはとても言えない訳で、そこにもブリッジ設計の難しさがあります。

シェクター製ブリッジはすべて純製プラスチック材を削り出し独自の質量と形状を施したものです。前に説明したような点についてシェクターは質量セッティングと形状からプラスチック材の特性をフルに生かし、音の分離の良さとリングスチール材の良さをもちろんの事一音一音に線の太さを備えさせる事に成功しています。

ストラトキャスターモデル用のトレモロユニットにおいてはストラトキャスターのボディがWカットウェイのスタイルで低域が出にくい構造になっている為、少しでも低域のロスが少ないブリッジが必要となります。シェクターのトレモロユニットはその点ストラトキャスター

モデルに低域の豊かさを与えています。

テレキャスターモデル用のブリッジに関しても同様ですが、テレキャスターモデルの本来のメリハリの効いたサウンドにゴシゴシの太さを持たせ、音にぐっと厚みが加わった音色をシェクターブリッジは生み出します。

次にベース用ブリッジですが、ベースの方のほとんどがもつと音を太く、低域を強調したいとお考えのようです。もちろん根本的な本部が低域を求められる材質と構造を備えていればPICK UPとブリッジ次第でそれは可能な事です。少なくとも今お使いのベースのブリッジでは低域が望めないといった軽いものでしたらシェクター製のベースブリッジに交換をお勧めします。シンプルな形状ながらプラスチック材のリングスチール、豊かな音質を備え、ボディをフルに鳴らした弦にフィードバックさせて鳴りを持続させます。

これには秘密があるのです。ブリッジは質量は軽すぎると低域が得られず、上げすぎると弦振動がブリッジに吸収されてボディの鳴りが低下しかえって軽い音色になります。またブリッジのボディへの接地面積が広すぎたりそのブリッジ内が空洞状態になっているものは音像をボヤかせます。

以上のポイントから理想的な設計がなされているからシェクター製ブリッジユニットはフルにボディを“鳴らす”のです。

シェクターチューンオマチックブリッジ 16P参照

シェクターのチューンオマチックタイプブリッジはその完成度により、ブリッジの芸術品と呼ばれる程ミュージシャンの評価が高いニュータイプのブリッジです。

形状は両サイドが大きく面カットされ、ブリッジの角が手に当たっても気にならない程なめらかです。強度的にも、長期使用による弦圧力にも変形等しません。そしてワイドピッチ設計ですら正確なピッチセッティングが可能で、更にブリッジロックにセットされた駒にクロスロック方式と呼ばれる前後から2本のスクリーンでロックする方式の、駒のガタつきは全くありません。

純製のプラスチック材を削り出した適正質量を備えた本体にそれぞれ完璧な精度でセットされた6個の駒は、サステインと音の線の太さ、分離の良さにあて、他のチューンオマチックタイプブリッジの比ではありません。

レスポールモデル、セミアコースティック等の楽器に取り付けた場合、PICK UP、テールピースと平行にセットできる為、楽器のルックスもひきしまります。

進めました。そして製作された各種シングルコイルピックアップはまさに画期的な内容を備えたものでした。Wワイヤリングによるブライツサウンドとハイパワーサウンドの双方をひとつのピックアップから得られる各種タッドピックアップがそれです。そしてローノイズである事はもちろん、6.5φという太いポールピースにより大きな弦振動にも、フルチョーキングにも音がやせてしまう事はありませんし、何よりもシングルコイルのピックアップではあり得なかった低域の豊かさやパワーはミュージシャンをほんとうに驚かせたものです。これは各種シェクター製シングルピックアップに共通した点です。しかもただ美しい音だけでなくタッドサウンドのブライツな美しい音色は、ミニスイッチやスイッチポットによりワンタッチでハイパワーサウンドと切替え可能の為、ミュージシャンの音作りに大きなバリエーションを与える事に成功しているのです。

こうした大きなメリットはシェクターの“スーパーロック”ハンパッキングピックアップにも見られます。

まず従来のハンパッキングピックアップの欠点をあげてみましょう。シングルピックアップに比べパワーはあがりますが、速いコードワークなどの場合音像がぼやけやすい(クリアでない)、エフェクターの音が悪いなどです。シェクターのハンパッカーピックアップはそれらの欠点をみごとにカバーしています。まずそのハ

イパワーはもちろんの事、音像のクリアさにはシングルピックアップには劣りません。

その秘密はフェライトバーマグネットが生み出す安定した磁界と完璧なコイル巻技術で豊かなサウンドを生み出す為の巻数セッティングがなされ、更にスイスから取り寄せた特殊樹脂樹脂でハウリングを全く起こさない処理が施されている点にあります。そのうえシングル作動させてもその美しいリッチなサウンドを保つ設計がなされている為、コイルタップサウンドもハンパッキングピックアップとはとても信じられないしっかりした音像を

ピックガードで音が変わる…!?

シェクター社の各ピックアップアセンブリーは各種スタイルのピックガードにピックアップ、ABポット、切り替えスイッチ等がセットされており、このピックガードにはプラスチック、スチール製、アルミニウム製のものがああります。そしてそれらの材質の違いは微妙に音質に影響を与えています。

従来のピックガードと申しますとプラスチック製のものがほとんどでしたが、シェクターはピックガードにまで素材の違いによる音作りをさせています。レッドプラスチックがベースになったピックガードは純製のプラスチックを鏡のように磨き込みその上にコーティング仕上げを施してあります。(これはたいへん手間のかかる作業ですが) このプラスチック製のピックガードは見ための美しさだけでなく最終的な音質にプラスチックならではの暖かさが広がりを与えています。またある程度の質量を備えているためボディにセットされた場合楽器につきもてるデッドポイントを拡散させる役目も果たし、更に音にゴシゴシの強さを与えます。もちろん外來ノイズからのシールド効果があるのは言うまでもありません。

ブラッククロムコーティングが施されたピックガードの内身はスチール製。プラスチックのピックガードに比べかためめのスリートに音質に変化させます。またアルミニウム製のピックガードの上にブラックコーティングし

ペグと音質

ペグと言いますと、音質的な事についてより機能精度についてどの点に重点が置かれている様ですが、ここではペグが音質にどのような影響を与えているかについてお話ししたいと思います。

ペグの中で、まず精度を追求したもののほとんどが、ペグ自体の質量が少しばかり大きくなっているという点に注目していただきたいと思ひます。

ペグがダイキャスト製で、クルーソンタイプの様な軽量の物に比べるとかなり重いタイプのものと、軽量タイプのペグとを同じギターのヘッドに取付けた場合、どのような違いが出るか御存知ですか？

まずペグの質量が大きくなればなる程、弦振動がペグに吸収され、音の線が細くなり、音質はより金属的な音色に変化していきます。ようするに豊かな木の響きが殺されて行くという訳です。冷たい金属的な音色を好まれ

ABポット

シェクターアセンブリーに使用されているポットはシェクターがAB社に特注で製作させている“MODPOT”と呼ばれている最高級の可変抵抗です。

完璧なシールドとオイルによる潤滑処理がなされ、2重に巻かれたワイヤー状の端子がプラスチック板上の抵抗プレートにスムーズに滑る為、従来のポットになかった滑らかさとクリアさを備えています。そしてシェクター社は更にこのAB社に OMNI POT と呼ばれるスイッチポットも特注製作させており、各ピックアップアセンブリーにマウントされており、

生み出します。従ってミュージシャンの必需品であるエフェクターの乗りの良さもミュージシャンから絶賛をあげています。ともすると能率の良さを追求するあまり冷たいサウンドになりかねないのがピックアップ製作の難かしですが、シェクターのスーパーロックはフルアコースティックにマウントしても木の暖かな響きを豊かにピックアップします。

ジャズからハードロックまであらゆるギタリストに支持され、アメリカ本土においてハンパッキングピックアップの傑作と言われている理由がそこにあります。

たものとホワイトエナメルコーティング、そしてカーコーティングしたものがあありますがこれはコーティングの違いで、音質的には従来のプラスチックのピックガードに比べると主に高域をひきしめてくれます。

以上はピックアップをそれらのピックアップにスクルーでプランコ形式でつるした場合に、より明確に変化いたします。

シェクターのPUアセンブリーはすべてピックアップに付したタイプのセッティングがなされています。ピックアップをピックアップにつるした場合とボディに直接セットした場合、ボディにダイレクトセッティングした方がそのボディ材の特性により音質が一般的にかためのひきしまった音色に変化します。

ピックアップで音が変わるというお話でしたが“まさか!”と思う方は実際にお試し下さい。その“まさか!”が“ほんとだ!”に変わりますヨ。

る方はもちろんそれでOKなのですが、木の鳴りを大切にしたいとお考えの方は、質量が軽めの物を選ぶべきなのです。(これはギターにもベースにも共通して言える事です)

もちろん機能精度が高いものの方が、チューニングの狂いも少なく安心感がありますね。ですから質量をできるだけおさえ、なおかつ精度が優れたものが良いという訳です。

シェクターとムーンは御存知のように、各種の木の鳴りをフルにひき出し、一本一本の楽器に味のあなる音づくりを施している訳ですから、精度的には特に高いという程ではないのですが、クルーソン製の軽量ペグを使用しているのです。

もちろん、より精度の高い軽量タイプのペグの開発を進めている事は言うまでもありません。

ポットに関して、たかが可変抵抗と思っておられる方がたいへん多い様ですが、このポットを使用した場合と、従来のポットを使用した場合とでは最終的な音のぬけと音像のクリアさの違いが誰の耳にもはっきり分る程の差が出るのです。“今使用している楽器は最高に音のぬけがいいんだ。”と思っていられる方、このAB社製シェクターMOD POT に交換すれば、今以上に音のぬけが向上し音像がクリアになるんですよ！なにしてAB社製のポットと言えばオーディオアンプの高級機やNASAの宇宙通信センターでも使用されているくらいなんですから。

尚シェクター製ピックアップには500KΩのABポットを、その他のメーカーの物にはシングルPU用250KΩを用意されて、あります。



彼らはまず従来のシングルコイルピックアップの欠点をクルーザーアップしました。シングルコイルピックアップの欠点が高域、中域は出るが低域が出ない、音の線が細い、ノイズ、ハウリングが多い、ハイパワーが望めないなどです。次にそれらの欠点をカバーする事を前提とした開発を

